ステージ
9

はじめてつくる
本格鉄道ジオラマ

DeAgostini
COLLECTIBLES

ステージ 9：地面を造形する②

パーツリスト

9-A

9-B

9-C

9-D

※作り方ガイドの写真は、実際に提供するパーツと仕様などが一部異なる場合があります。

9-A　塗料②（錆色）
9-B　塗料③（茶色／踏切板色）
9-C　塗料④（黒色）
9-D　Cタイプディーゼル車DC511

STEP 1：地面と山肌に薄めた木工用ボンドを塗る

STEP 1：地面と山肌に薄めた木工用ボンドを塗る

このSTEPでは地面と山肌に薄めた木工用ボンドを塗っていく。薄めた木工用ボンドを塗る目的は以下の2つだ。

・ステージ8で塗った石膏が割れないように保護するため
・塗料の色を乗せやすくするため

このSTEPの作業では紙コップ数個（最低2個）とステージ1で提供した木工用ボンド、ステージ8で提供した塗料①（地形基本色）と筆（3種）を使用する。

ONE ワンポイント POINT

木工用ボンドを塗る作業の前に、ステージ8で塗った石膏が、不自然にデコボコしているような部分があれば80～120番程度の少し目の粗いサンドペーパーで擦って、整形しておこう。

STEP 1-1

先ず、木工用ボンドを紙コップの2分目～3分目程度まで入れる。

STEP 1-2

次に、もう一つの紙コップに、5分目～6分目程度の水を入れる。

STEP 1-3

ステージ8で提供した塗料①（地形基本色）を平筆に含ませ、木工用ボンドを入れた紙コップに塗料を垂らす。塗料①を入れるのは、薄めた木工用ボンドを塗る際に塗った所が分かるようにするためなので、塗料は少しだけ入れれば良い。

STEP 1：地面と山肌に薄めた木工用ボンドを塗る

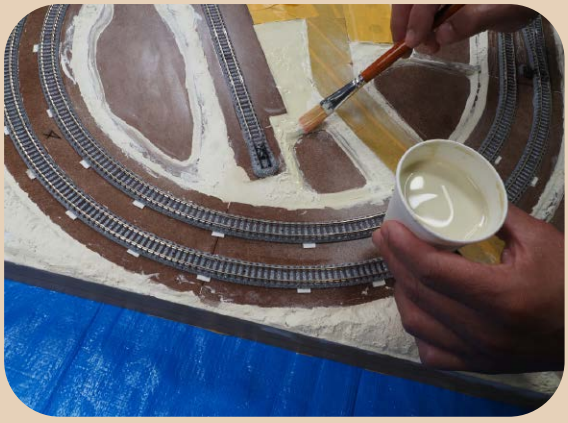
STEP 1-4

STEP1-2で紙コップに取っておいた水を入れ、平筆でよくかき混ぜる。

STEP 1-5

先ずは平坦面から塗っていこう。石膏を塗った部分に平筆を使って塗っていくと良い。

ONE ワンポイント POINT



池や水田の平坦面には木工用ボンドを塗らないように注意しよう。木工用ボンドが付着してしまった場合は、布巾などで拭き取っておく。

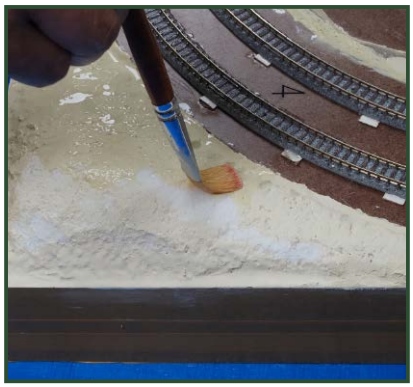
また、道路盤のマスキングテープの上にも塗らないように注意する。後でマスキングテープを剥がす時に、地面に塗った木工用ボンドが一緒に剥がれてしまう恐れがあるからだ。木工用ボンドが付着してしまった場合は、布巾などで拭き取っておく。

STEP 1-6

平坦面を塗り終えたら、畑の畝に木工用ボンドを塗っていく。ステージ８で塗らなかった畝の部分も含め、全体に薄く塗っていく。これは畝の表面を保護すると共に、後で塗料の色を乗せやすくするためだ。

STEP 1：地面と山肌に薄めた木工用ボンドを塗る

STEP 1-7



次に山や丘にも木工用ボンドを塗っていく。ステージ8で石膏を塗っていなかった部分も含め、全体を塗る。

STEP 1-8

山の頂部付近を塗る場合は、一旦トンネルの上の部分を取り外してから塗るようにする。

ONE POINT ワンポイント

山などの広い範囲を塗る場合は、市販の工作用刷毛があると手早く塗ることができる。

STEP 1-9

山の頂部とベース部分の勘合部にも木工用ボンドを塗る。発泡スチロールの断面を硬くし保護するためだ。

STEP 1-10

トンネル側壁部にも木工用ボンドを塗っておく。

STEP 1：地面と山肌に薄めた木工用ボンドを塗る

STEP 1-11

STEP1-8で取り外した山頂部を用意し、側面部四方と山頂部の山肌部分に木工用ボンドを塗っていく。塗り終わったら、木工用ボンドが完全に乾くまで紙コップや発泡スチロールの端切れの上に置いておくと良い。

STEP 1-12

山頂部裏面の全面にも木工用ボンドを塗る。塗り終わったら紙コップや発泡スチロールの端切れの上に木工用ボンドが完全に乾くまで置いておく。

山頂部の木工用ボンドが完全に乾いたら、所定の位置に嵌めなおす。必要個所に全て木工用ボンドを塗り終えると、写真のようになる。

STEP 2：地面と山肌に色を塗る

本STEPでは、地面と山肌に色を塗っていく。8-V塗料①(地形基本色)、9-A塗料②(錆色)、9-B塗料③(茶色／踏切板色)、9-C塗料④(黒色)と紙コップ6個程度、平筆、丸筆、水を用意する。水はペットボトルに入れておくと便利だ。

先ず塗料を調合し、コンクリート色と、明るさ(濃さ)の違う土色(茶色)を４種類くらいつくる。色は自分の好みでつくれば良いが、下の写真の色を参考にすると良い。

STEP 2-1

【コンクリート色】
最初に地形基本色を少し紙コップに取り、黒色を足しながら色を調整していく。

【明るい土色】
作例では、地形基本色に、極少量の黒色を足している。

【少し暗めの土色】
作例では、地形基本色をベースに、他の全色を少しづつ足している。

【暗い土色】
作例では、錆色をベースに、地形基本色と黒色を少し足している。

【少し赤い土色】
踏切板色のみ。

ONE ワンポイント POINT

地形基本色など、大きな容器の塗料を紙コップに入れるときは、塗料を筆に沿わせながら入れていくと、分量を調整しやすい。

また、黒色や錆色など、濃い色を足すときは、足し過ぎないように丸筆に塗料を含ませてから、垂らすようにして足していくことをお勧めする。濃い色を足し過ぎると、明るい色には戻しづらいからだ。色を濃くし過ぎた場合は、一旦塗料を半分ほど捨ててから、明るい塗料を入れて再度調色すると良い。

STEP 2：地面と山肌に色を塗る

STEP 2-2

自分の好みの色の調合が出来たら、それぞれの紙コップに少量の水を入れる。ドロドロした塗料が、少しだけサラっとなる程度で良く、筆に取って塗る時にムラなく塗れるくらいになっていれば良い。

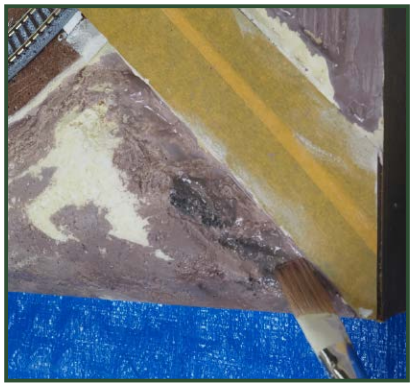
STEP 2-3

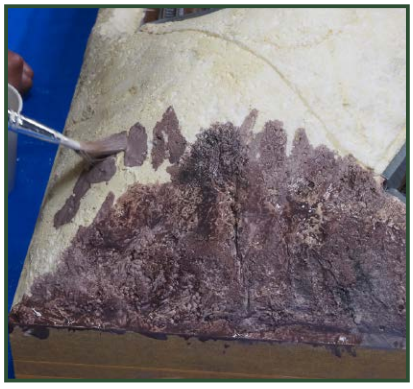
ここからいよいよ色塗りの作業に入る。塗料は基本的に色の暗い(濃い)ものを最初に塗り、その後に段々明るい(薄い)色を塗り重ねていく。そうすることで山肌や地面に自然な感じの陰影を付けていくことができる。

先ずは調合した土色の中から、一番暗い(濃い)土色を用意し、山肌の下部を中心に色を塗っていく。山の下の方をより暗くすることで、自然な陰影や立体感を演出するためだ。

右の写真は後のSTEPで暗い土色の上に、徐々に明るめの土色を乗せて行った仕上がり写真だ。自然な陰影と立体感を演出している。

下の何枚かの写真を参考に、山肌の下部を中心に一番暗い土色を塗っていこう。山や丘の頂部までは塗らなくて良い。





STEP 2：地面と山肌に色を塗る

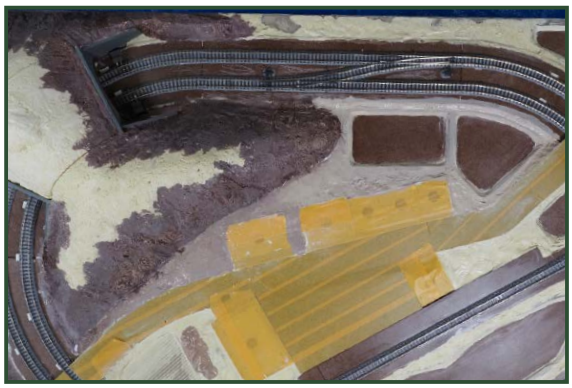
STEP 2-4

畑の部分も、畝に陰影を付けたいので、一番暗い土色を塗っておく。後で少し明るい土色を乗せることで、畝の陰影が演出できる。

右の写真は後のSTEPで少し明るい土色を乗せた仕上がり写真だ。畝の陰影を演出している。

STEP 2-5

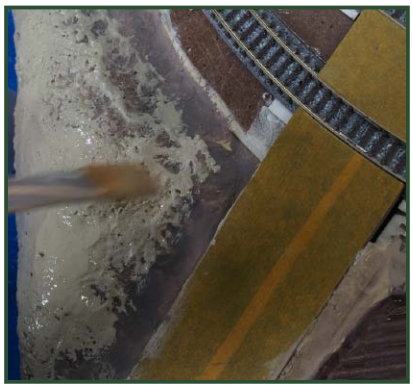
次に少し暗め（2番目に暗め）の土色を塗っていく。先ずは山と地面の境目から塗り始める。



写真は山とレール、道路盤に囲まれた部分に少し暗めの土色を塗ったものだ。同じ要領で他の平坦面にも少し暗めの土色を塗っていく。

水田の部分に塗料が付着した時は、布巾等で丁寧に拭き取っておく。

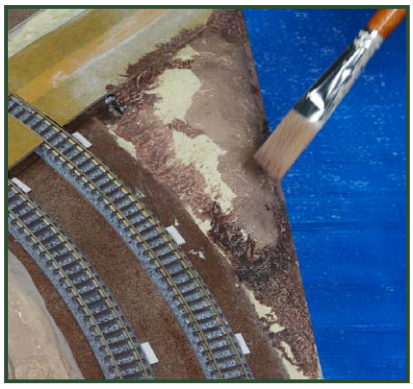
STEP 2-6



少し暗めの土色を山の頂部の方から塗っていく。既に一番暗い土色を塗った部分にも被せるように塗っていく。少し窪んだ部分は無理に塗らずに、一番暗い土色が残るようにしておいて良い。

STEP 2：地面と山肌に色を塗る

STEP 2-7



STEP2-6と同じ要領で、山全体と2か所の丘にも少し暗い土色を上乗せしていく。

STEP 2-8

更に少し赤い土色や、明るい土色などを上乗せして、山肌の色に変化を付けていく。

少しずつ色の変化を付けながら色を上塗りしていくと、写真のようになる。

STEP 2-9

平坦面にも少し赤い土色や明るい土色を上乗せして、地面の色に変化を付けていく。

STEP 2：地面と山肌に色を塗る

STEP 2-10

レール道床の両端部にも幅1㎝程土色を塗っておく。レール道床には後のステージでバラストを敷くが、端部までは敷かないからだ。

但し、駅のホームが接する部分（青丸の部分）だけは土色を塗る必要は無い。

STEP 2-11

畑の畝の頂部に明るい土色や少し赤い土色を軽く塗ると畝に陰影を付けることができる。

STEP 2-12

山頂部を一旦取り外し、写真で示した部分に少し暗めの土色を塗る。この部分は外から見える部分ではないが、山頂部と山のベース部の隙間から明るい色が見えないようにするためだ。反対側の山のベース部も同様に塗っておく。トンネル壁面部分には後でコンクリート色を塗るので、このSTEPでは何も塗らないでおく。

STEP 2：地面と山肌に色を塗る

STEP 2-13

STEP2-12と同様に、山頂部の側面にも少し暗めの土色を塗る。山頂部の底面には後でコンクリート色を塗るので、このSTEPでは何も塗らないでおく。

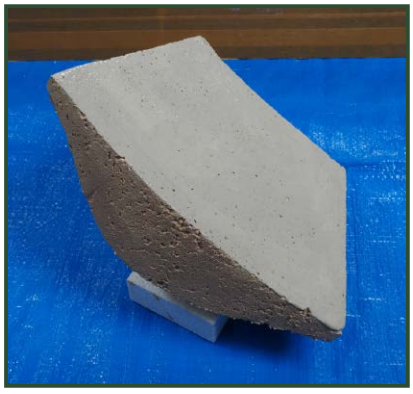
色を塗ったら、紙コップや発泡スチロールの端切れの上に置いて乾かしておく。

STEP 2-14

トンネル壁面部にコンクリート色を塗る。反対側の壁面部も同様に塗っておく。

STEP 2-15

山頂部底面（トンネル天井部）にもコンクリート色を塗る。

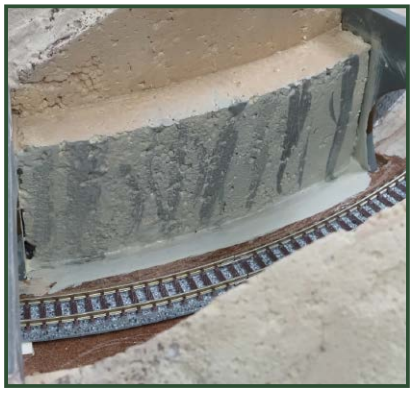


色を塗ったら、紙コップや発泡スチロールの端切れの上に置いて乾かしておく。

STEP 2：地面と山肌に色を塗る

STEP 2-16

塗料④（黒色）を少し水で薄め、丸筆でコンクリート色を塗ったトンネル壁面部に筋を入れていく。これは水が染み出たコンクリート面の汚れを演出するためだ。反対側の壁面部も同様に色を塗る。



筋の輪郭がハッキリし過ぎている部分は、水を含ませた筆でなぞって、輪郭を滲ませる。

本ステージの完成

STEP2-13～15で山頂部に塗った塗料が乾いたら、山頂部を嵌め直して、本ステージでの作業は終了だ。製作物と、塗料①～④および3本の筆は後のステージでも使用するので、保管しておく。筆先は水できれいに洗っておこう。

9-D Cタイプディーゼル車DC511は、次のステージで試験走行（レールの通電チェック）をするために使用する。